

令和7年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は、令和5年度から10年間の「第二期中長期計画」を策定し、学園の現状と課題、学園を取り巻く環境の変化や今後の方向性を踏まえた本学園の目指すべき姿（ビジョン）を掲げ、ビジョン達成のために新たなスタートを切りました。「第二期中長期計画」では、設置校の存続を前提に、学生・生徒の確保を最優先の課題として計画を策定しましたが、2年間の計画期間を終え、想定以上の社会環境の急激な変化により、大学・短大の学生数減少に歯止めがかからない状況となっています。

この現状を踏まえ、令和7年2月に「尚絅大学短期大学部総合生活学科の令和8年度以降の募集停止」及び「尚絅大学現代文化学部の入学生員削減と教育内容の抜本的な見直し」を決定しました。

令和7年度においては、従来の中長期計画に則り事業運営を行うことに加え、上述の大きな改革にしっかりと対応することが必要となっています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が教育研究機関として社会の要請に応え、学生・生徒等が充実した学校生活を過ごすためには、経営力の強化による安定的かつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠で、その方向性を明確にする為、令和7年度中に「第二期中長期計画」を改定する必要があります。

○ガバナンス

経営の規律と誠実性を維持しつつ、「建学の精神」「教育理念」に則った教育を実現するための体制整備に努め、管理部門と教学部門の円滑な意思疎通と連携を図るとともに、相互チェックを適切に機能させます。また、人権・安全へ配慮した危機管理体制及びSDGsへの取り組みを強化します。

○財政

中長期計画に基づく適切な財務運営を確立し、安定した財務基盤のもと収支バランスの均衡に努めます。

○人事

各設置校の使命・目的に則し、財政状況を踏まえた適正な人員配置と、公正・公平で納得感のある人事評価の確立と適正な処遇の実現に努めます。また、適切な人事管理・労務管理体制を確立し、教職員の資質・能力の向上と職能開発を実施します。

○施設設備

外部環境の変化に対応した教育・研究環境の整備と適切な運営・管理を実現します。

○同窓会・後援会・地域との連携

同窓会、後援会および地域との連携強化に努め、各設置校の発展に寄与する活動を支援します。

(1) ガバナンス

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 組織倫理に関する規則等の整備と適切な運営を行う		
① 法令等の改正に対応した規則等の整備	② 法令等に則った情報公表の確実な実施	① R7年4月私立学校法の改正に基づく寄附行為に対応した学内規則等の整備及び点検 ① 法令及び情報公開規程の遵守と情報内容の正確性、適時性の維持及び点検
2. 建学の精神、教育理念の実現を経営において適切に取り込む		
① 理事会・評議員会による議案の審議・諮問実施	② 監事による理事等の業務執行状況のチェック	① 建学の精神・教育理念の実現に則した議案の審議・諮問の実施と経営への確実な反映 ① 理事会・評議員会への出席、理事長等との意見交換及び三様監査体制による連携の強化
3. 法人及び各設置校の管理運営機関との円滑な意思決定と相互チェック体制機能を強化する		
① 法人及び各設置校の管理運営機関との連携	② 提案制度等の活性化 ③ 教学監査の見直しと確実な履行	① 法人及び各設置校の管理運営機関との円滑な意思疎通と連携の適切な実施 ① 事務職員が業務改善策等について積極的に提案できる環境づくりの検討 ① 監事と学長・校長等での意見交換の実施
4. 人権、安全に配慮した危機管理体制を整備し適切に機能させる		
① 危機管理に関する規程等の見直し	② 危機管理プログラムに基づく避難訓練実施 ③ 情報インシデント等への対応 ④ ハラスメントの根絶 ⑤ 安全・安心な環境の維持	① 危機管理に関する規程等の見直しと改正の確実な実施 ① 年次の危機管理プログラムに基づく避難訓練等の確実な実施 ① 情報システムに関する管理体制の点検と見直し及びインシデント対応の構築と検証 ① 行動規範の遵守及びハラスメント研修の実施によるハラスメント防止対策と対処法の理解・認識の向上 ① 設備等の定期的な点検・メンテナンスと安全基準の遵守

5. 学園が制定しているSDGs項目の進捗管理を徹底する。 SDGs項目の数値目標	
① SDGs項目の進捗管理及び成果の検証	① SDGsに関する重点的な取組み状況、指標及び実績の情報収集
② SDGsの推進方策の検討	① 学園や地域社会の現状とSDGs項目の関連性の把握

(2) 財政

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 第1次中期財務計画との乖離幅を每期10%未満にする	
① 中期財務計画の改定 ② 改善の具体策の検討と次年度予算への反映 ③ 決算見通しを踏まえた補正予算の速やかな編成 ④ 厳格な予算執行及び予算統制	① 第二期中長期の改定に合わせ、中期財務計画を改定 ① 中期財務計画と決算書の乖離に対する具体策の検討及び次年度予算への反映 ① 月次決算書を活用した補正予算の計画的な作成 ① 各設置校の予算執行に対する有効性及び効率性の検証
2. 適切な収入の確保と必要な支出について厳格に検証し、収支均衡を目指した予算編成を行う	
① 募集活動、入学定員・収容定員の厳格な管理 ② 全国平均並みの一般補助率の確保 ③ 特別補助の支給基準クリアのための施策検討 ④ 寄付金に関する情報収集 ⑤ 寄付金制度の構築及び経常活動収支寄付金目標 ⑥ 競争的研究費の獲得件数・金額の管理 ⑦ 外部資金獲得の情報収集及びインセンティブ強化 ⑧ 人員配置計画の立案 ⑨ 基幹教員制度の活用促進及び事務効率化を踏まえた事務職員の抑制 ⑩ 教育研究経費比率・管理経費率の管理 ⑪ 施設設備投資に関する外部負債の圧縮 ⑫ 既存外部負債の早期償還 ⑬ 如蘭学寮の存続・活用検討 ⑭ 武蔵ヶ丘キャンパスの遊休地等売却	① 新設する広報課にて、募集に関する活動方針策定・実施状況の確認を実施 ① 経常費補助金の増減率改善による補助金額の増額及び特別補助に選定されるための体制整備 ① 国の補助事業に関する情報収集と他大学との情報交換 ① 他大学の寄付金募集の額及び方法に関する情報収集 ① 有効的な尚絅学園みらい募金の募集方法の検討 ① 科研費の申請状況に基づく特別研究費の傾斜配分 ② 科研費等競争的研究費に関する情報提供及び申請支援 ① 科研費新規採択率の高い他大学の情報収集及び獲得者への学内研究費の効果的配分 ① 第二期中長期計画の改定及び中期財務計画の改定に合わせ、中期人員計画を改定 ① 非常勤教員数の見直しやDX推進を通じた事務効率化による教職員の人員抑制 ① 同規模法人の教育研究経費比率・管理経費率の調査 ① 施設設備投資の必要性、合理性検証による費用の削減 ① 既存外部負債(特に市中銀行の負債)の早期償還の検討 ① 未使用学寮の有効的活用策の検討 ① 武蔵ヶ丘キャンパス遊休土地売却手続きの継続及び令和7年度中の完了
3. 学園の持続的発展を果たすため、基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする	
① 令和8年度決算までに収入超過達成	① 月次決算書による収支状況のモニタリングと過年度比較
4. 設置校、部門別の財務状況の分析を精緻化し、各設置校別の収支改善方策を検討する	
① 設置校別・部門別の財務分析・改善策	① 各設置校との収支データの情報共有と改善指示
5. 会計処理の適切な実施及び会計監査の体制整備と厳正な実施を推進する	
① 法改正への適切な対応による規程整備 ② 会計処理システムの全学的導入 ③ 予算の追加・変更における補正予算の適切な編成 ④ 三様監査体制の維持・連携による会計監査精度の向上	① 学校法人会計基準改正に伴う学内規程の点検及び見直し ① システム導入により考えられる諸問題の分析と解決策の検討 ① 予算の執行状況の把握による適切な補正予算の編成 6 監事、監査法人、内部監査室による情報交換の実施

(3) 人事

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 第1次中期人員計画に基づき、教員数は157人、事務職員数は84人を配置する	
① 第1次中期人員計画に基づく人員配置	① 第二期中長期計画の改定及び中期財務計画の改定に合わせ、中期人員計画を改定 ② 大学設置基準に基づく基幹教員制度の有効活用

② 大学・短期大学の非常勤教員採用方法の検証及び検討 ③ 多様な雇用・就労形態による人材活用	① 現行の採用方法の問題点や改善点の把握
	① DXや働き方改革等の推進による効率的な事務組織の再編の検討 ② 自己申告の活用による適材適所への人員配置や採用計画の策定
2. 教職員が意欲と能力を十分発揮できるよう、公平・公正で納得性のある人事評価とフィードバックを実施し、それに対する適切な処遇を行う	
① 公正・公平で納得性のある人事評価の実現	① 評価者訓練等の徹底による、全評価者の評価基準の統一化・均等化と公正性・公平性・納得性のある人事評価制度の継続
② 職能開発面談の実効性の向上	① 職能開発面談(目標面談、中間面談、育成面談)の実施率(各面談の実施率100%)の向上
③ 事務職員の昇格・昇給基準に関する規程の施行	① 事務職員の昇格・昇給基準に関する規程に基づく運用の実施
3. 安全で健康的な職場環境のもと、適切な人事管理・労務管理に努める(有給休暇取得率100%、時間外勤務時間を令和4年度実績値から50%削減)	
① 有給休暇取得状況、時間外勤務状況の継続的把握	① 有給休暇取得状況及び時間外勤務状況の継続的把握と、改善施策の着実な立案・実施
② 有給休暇取得の奨励	① リフレッシュ休暇やバースデー休暇等のアニバーサリー休暇の更なる奨励策の検討
③ 時間外勤務管理の最適化	① 効率的な業務プロセスの検討と管理者の適切な指示の徹底
④ ノー残業デー等の再徹底と実施強化	① ノー残業デー等の実施による就業時間に対する意識啓発と管理者による指導の強化
4. 資質向上と組織力強化のため、全学的なFD・SD活動等を積極的に実施し、教育・研究及び業務等への改善・工夫・開発に効果的に取り組む。(FD活動は毎年度5回、SD活動は毎年度5回を開催、参加率は各回最低90%)	
① FD活動における研修内容の刷新	① FD活動内容の検討・実施とその効果の検証
② 教育内容・方法等の改善の工夫・開発	① 教育内容・方法等の改善の工夫・開発等への寄与に対するFD活動等を通じたインセンティブの検討
③ 事務職員の能力・スキル基準の設定	① 求める事務職員像と事務職員として求められる知識・技能の設定と公表
④ 体系的な研修制度の策定	① 階層別・業務別の体系的な研修制度の策定

(4) 施設設備

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 教育・研究目標達成のため、校地・校舎・運動場・図書館・体育施設(アリーナ含む)・情報サービス施設・付属施設などの施設・設備を適切に整備し、かつ有効に活用する		
① 施設・設備の安全管理・メンテナンスに関する態勢整備	② 教育効果を高める施設整備	① 施設・設備の点検及びメンテナンスの実施 ① 教育効果及び学生満足度を高める設備の導入検討
2. 教育・研究目標達成のため、快適な学習(修)環境(情報インフラ含む)が整備され、かつ有効に活用する。学生・生徒等の満足度調査結果(施設・設備に関する部分)80%以上を確保する		
① ICT環境の整備	② 図書館利用の推進	① DX推進に伴うICT環境の適切な整備の実施
③ 施設・設備の利便性に関する点検・整備	④ 施設・設備計画の立案・実行	① 電子図書館化の検討と推進 ① 施設設備の利便性の検証及び整備の検討 ① 各設置校からの要望を反映した施設整備計画の推進
3. 施設整備計画において、資金的リソースを確保の上、適切に実施する		
① 建物の建替え・改築・補修・取壊しの検討	② キャンパス・設置校単位での修繕計画	① 過去の改修状況等を加味した老朽化した建物への対処
③ 如蘭学寮の利活用の検討	④ 遊休土地に関する売却計画策定	① 耐用年数や使用状況、老朽化の度合いを勘案した修繕計画の検討 ① 未使用学寮の有効的活用策の検討 ① 武蔵ヶ丘キャンパス遊休土地売却手続きの継続及び令和7年度中の完了

(5) 同窓会・後援会・地域との連携

アクションプラン 重点施策		具体策
1. 学園及び各設置校と同窓会・後援会との連携方策の点検・評価を行い、組織・運営の充実を図る。ホームカミングデいの参加者を前回参加者の10%以上増加させる		
① 各同窓会との定期的な事務連絡会の実施と協力活動の充実	② 後援会との定期的な事務連絡会の実施と在校生に対する迅速な支援	① 各設置校における同窓会組織との連携強化及び設置校と法人との相互協力体制の構築 ① 後援会との情報共有及び迅速な在校生の活動への支援
2. 同窓会との連携により卒業生ニーズを把握し、卒業生の満足度を高める施策を実施する		
① 学園に対するニーズの把握		① 学園及び各設置校における同窓会組織との連携強化
3. 地域連携を更に進化し、各種イベントやボランティア活動に参加する。学園全体で年間50件以上の各種イベントやボランティア活動への参加に努める		
① 情報の共有化と積極的な公表・広報		① 地域連携事業に関する情報の共有化と積極的な公表・広報の実施

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

本学における喫緊かつ最大の課題は学生確保です。18歳人口の減少や学生ニーズの多様化等により全国的に共学・4大志向が見られる中、令和4年度以降、入学定員充足率が下がり、極めて深刻な事態となったために、昨年度の令和7年度学生募集は、これまで以上に広報に力を入れ、さらにオープンキャンパスの内容充実や入学奨学金制度の刷新を図るなどに尽力しましたが、生活科学部以外の学部学科は令和7年度入学予定者がさらに減少する見込みです。このような中で、長年にわたって定員未充足が続いていた総合生活学科の令和8年度以降の学生募集停止、同様に定員未充足が続いている現代文化学部の入学定員の削減を受け、今後その対応と学生募集の改善を図ります。本年度は次年度の学生募集の活動によって、これらの事態に打ち勝つことが必要です。全学部・学科で教育内容の魅力を高めるとともにこれまでの学生募集活動の分析・改善を図るとともに、高校生のみに限らず、小・中学生までを含めた長期的な観点を踏まえ、入学志願者の増加に向けた取組を実施し、学生数の確保を図ります。

2023年度に第二期中長期計画(2023年4月～2023年3月)がスタートしました。第一期中長期計画では、教育内容の改善としてカリキュラム編成の高度化や学生ニーズへの適切な対応、取得可能な免許・資格の見直し、教育方法の改善を行いました。特に、本学の強みである「食」や「子育て」分野に加え、観光文化における地域連携や貢献についても、外部から一定の評価を得ています。第二期中長期計画3年目である本年度は、目標達成事項の目標値の再検討、さらなる教育方法や内容の充実、学修成果の見える化、地域連携活動及び研究活動を推進します。また、国際交流の促進や地域に向けたシンポジウム・研究会、公開講座、中高大連携などの充実を図ります。

令和6年度に受審した日本高等教育評価機構による認証評価において指摘された改善を要する点については集中的に、公表はされないが参考意見とされた課題については計画的に取り組めます。また、今年度から日本高等教育評価機構の新たな第4期評価システムに基づいて作成した令和7年度(評価対象:令和6年度)自己点検評価書に示した課題や課題に対する改善状況と今後の取組み予定の事項を実施し、内部質保証委員会を中心に、全学部・学科、並びに大学全体の教育の質を保証するためのPDCAサイクルを実践します。

(1) 教育と学修の充実

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進・点検 (自校教育に関する学生の理解度90%以上)		
① 継続的な自校教育の推進と定期的な点検 ② 「基礎セミナー」実施におけるPDCAサイクルの運用 ③ 自校教育についてのアンケート調査・点検・分析		① 「基礎セミナー」等での自校教育の実施と自校愛の醸成 ① 「基礎セミナー」での学修効果(学習内容・講師評価等)の調査・検証・改善の実施 ① 自校教育に関するアンケート内容の点検・実施(理解度90%以上の目標達成)
2. 教育方法及び教育体制の継続的な点検・改善		
① 三つのポリシーの定期的な点検・改善 ② 教育課程の点検・検討と学修成果の検証 ③ 新たな免許・資格導入の検討 ④ アンケート調査に基づく教育方法・教育体制の点検・改善 ⑤ FD・SD活動の推進及び教育体制の整備の点検		① 各学科による三つのポリシーの点検と必要に応じた改善 ② 現代文化学部はカリキュラム改変による三つのポリシーの抜本的見直し ① 各学科での教育課程の年度末までの点検・検証の実施及び教務連絡協議会での情報共有 ② 各学科での学修成果の年度末での点検・検証の実施及び教務連絡協議会での情報共有 ① 社会的ニーズの高い免許・資格等の導入 (入学志願者の効果に寄与する免許・資格の検討と導入) ② 現代文化学部のカリキュラム改変を反映した、学生募集にも寄与する新たな資格取得課程の導入 ① 各学科での授業改善アンケート結果の検証及びそれに基づく教育方法・教育体制の点検及び改善 ① FD・SD活動の量的・質的向上に寄与する研修テーマの選択並びに教育・実施体制の実施と点検
3. 学修成果の獲得及び教育の質保証(資格取得希望者の取得率90%以上)		
① 自己点検評価活動等の定期的かつ継続的な実施 ② 免許・資格取得率等の調査・評価 ③ GPAや成績平準化の全学的運用に係る体制整備 ④ 学修サポート体制の効果的な運用方法の検討 ⑤ 学修成果の客観的指標等の策定・導入・点検 ⑥ 入学前教育の効果の検証と点検 ⑦ 学修成果の情報公開体制の整備と公表の促進		① 自己点検評価活動の継続と次年度に向けた課題の抽出・検証 ① 免許・資格取得率の調査、課題の解決に向けた対策の検討(取得率90%以上) ① 各学科の成績平準化実施状況の調査・点検と全学的運用の検討 ① 学修支援センターでの学修支援の実施及びその利用実績と学修効果の検証 ① 各学科における学修成果可視化の推進と可視化された学修成果の検証 ① 入学前教育の実施・点検と入学後の学修への効果の検証 ① 情報公開の促進及び点検
4. 社会の要請や変容に適応した多様な教育の導入・推進 (アクティブ・ラーニングの導入科目70%以上)		
① 新たな教育方法・システムに係る多様な教育の整備		① 新たな教育方法や教育システムの調査・検討 ② アクティブ・ラーニング科目の実施状況の調査(導入率70%以上の確認)と検証 ③ 大学設置基準等の一部改正に伴う規程改正等の検討

② 新たな教育プログラムへの取組みを検討	① 令和8年度における数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)への申請に向けた「数理・データサイエンス・AI入門」の関連科目の導入
③ DXを取り入れた教育体制の整備	① DXを取り入れた教育方法の調査・検討・実施
④ 社会のニーズに即した新たな資格等の検討と促進	① 社会や時代のニーズに対応する教育方法・システムの調査・検討
⑤ 実践型教育やインターンシップ型教育等の整備	① 実践型教育・インターンシップ型教育での学修成果の調査・検証(卒業後アンケート及び就職先アンケート等)
5. 大学と短期大学部の連携による教育の推進及び編入学制度の制定	
① 合同開講科目の点検、新規開講科目の検討	① 全学開講科目の実施状況の点検及び新規開講科目の検討
② 単位互換制度の整備と相互支援の体制の整備	① 単位互換制度の導入及び導入後の検討
③ 編入学制度の整備と運用体制の整備	① 大学・短期大学部間の編入に関する説明会・相談会の検討・実施及び大学・短大教員間での意見交換会の実施と入学者数増加策の検討
6. 教育組織の継続的な点検・検討(リカレント教育の構築と受講者数100名以上)	
① 学部学科の体制検証と新規教育組織の検討	① 各学部・学科の教育体制の点検・検証
② 新たなリカレント教育システムの構築及び環境整備	② 各学科でのリカレント教育の実施状況の点検・検証 ① リカレント教育未実施学科でのできるだけ早期のリカレント教育実施に向けた調査・検討

(2) 学生確保

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 全学部・全学科入学定員充足率100%以上	
① 高校生、社会人に分けた目標設定	① 社会や学生のニーズに合わせた最新のカリキュラムの魅力や、国家資格・免許等の取得を目的とした実践的なカリキュラムなど、本学の持つ多様な学びの発信力の強化 ② 入試情報等の訴求先(高校生・保護者・高校教員等)への直接発信の強化。高校生や保護者が利用するウェブサイトやアプリへの広告掲載の検討 ③ 地域との連携イベント・地域資源の開発・他国の教育機関との交流等の発信力の強化
② 費用対効果を十分考慮した効果的な広報活動の実施	① WEBオープンキャンパス等、DXを推進した情報提供方法の検討 ② 大学ホームページ及びデジタルコンテンツの効果的な活用と検証 ③ SNSの公式アカウントを活用した情報提供の強化(入試ステージに応じた情報の提供の強化) ④ WEB広報ツール及びWEB広告の活用と効果検証 ⑤ 小論文、自己申告書対策等、受験生に向けた講座の早期(年度前半)実施 ⑥ 在学生を介在させた出身高校との関係の強化と高校生への直接訴求 ⑦ 同窓会関連受験生の増加のための二世帯・三世帯入学奨学金の広報 ⑧ 出前講義の広報強化と実施促進、高校からの信頼感の醸成 ⑨ キャンパスガイド及び募集要項の早期発行と内容の刷新 ⑩ 大学ホームページ及びSNSを活用した各学部・学科独自の魅力の発信
③ 入試アドバイザー及び教職員一体となった高校訪問・ガイダンスの実施	① 計画的かつ効率的な高校訪問及びガイダンスの実施 ② 高校訪問及びガイダンスの状況に関する情報共有と当該情報の活用 ③ 広報活動におけるスクリプト作成 ④ オンラインを活用した高校訪問及びガイダンスの実施の検討
④ 尚綱高校含めた高大連携授業・高大連携事業の強化	① 県内女子校をはじめとした高校との高大連携授業・模擬授業・入試説明会等の開催 ② 学部学科の学びに応じた高校との高大連携の推進及び探究活動への協力
⑤ 尚綱高校からの入学者増加策の取り組み	① 連携授業・連携事業の検証と実施、併設校推薦等の広報 ② 学生・生徒同士の相互交流の推進(学園祭の中高大同日実施)
⑥ 社会人入学者増加策の取り組み	① 実習先・就職先やハローワーク等と連携した奨学金・専門実践教育訓練講座等に関する広報の強化
⑦ 魅力ある奨学金制度等の見直し・新設の取り組み	① 給付型入試奨学生制度の内容検証と検討 ② 他学の状況調査と、魅力ある奨学金新設の検討
⑧ 正規留学生の募集と選抜方法等の検討と実施	① 日本語学校や企業訪問を含めた志願者募集方法の検討と実施

⑨ 現代文化学部及び総合生活学科における取得可能免許・資格と就職の関連性についてのわかりやすい広報	① 新カリキュラム内容の積極的な広報の推進 ② 新たな取得可能資格・免許の導入及び就職等への反映強化の提示
2. オープンキャンパス参加者数(延べ人数)1,000人以上	
① 学部・学科・入試課による趣向を凝らし充実したオープンキャンパスの実施 ② 在学生の積極的参加を促し、在学生と参加者の交流による本学魅力の伝達 ③ 大学ホームページとマスコミを活用した情報発信	① 従来型オープンキャンパス(体験授業中心型)にキャンパスライフ提案や、教職協働による保護者までを対象とした個別相談型を付加したイベントへの転換 ② 体験授業、キャンパスツアー、公開講座導入等の本学の特色を活かした魅力ある企画内容の実行による来場者満足度の引上げ ③ 4月から7月までの毎月1回、8月に2回、令和8年3月に1回の計7回の受験ステージに応じたオープンキャンパスの実施 ④ 7月の尚綱高校の文化祭と尚綱大学・尚綱大学短期大学部の学園祭とオープンキャンパスの同時開催による学園全体の効果的な広報の実施 ① 在学生との交流を通じた共感及び直接対話による交流の促進 ② 資料請求者・来場者(保護者含む)への教職協働による適宜のフォローによる受験出願率の向上の促進 ① 大学ホームページ及びSNSによる受験情報のタイムリーな発信の推進 ② プレスリリースによる情報発信の実施
3. 募集方法の継続的見直し	
① 入試制度改革の趣旨を踏まえ、アドミッション・ポリシーに則した多様な入学者選抜の実施 ② 選考方法における新たな選択科目の導入の検討 ③ 2025年度から始まる新課程入試への対応 ④ 多様な背景を持った学生の受入れに配慮した選抜の実施の検討	① 自己申告書又は大学入学志望理由書を活用した学力の3要素を多面的・総合的に評価する取組の検証 ② 出願書類の整備・見直しと評価方法の検証 ③ 総合型選抜における多様な受験者ニーズに対応可能な選抜方法の導入検討 ④ 在学者数が急増している通信制高校に対しての推薦型選抜の指定校枠の増加検討 ⑤ 単位認定型高大連携入試の導入に向けての調査 ① 数理的思考やデータ分析に関する試験問題として、共通テスト利用型選抜への「情報」科目の導入 ② 生活科学部一般選抜に導入した英語資格のみなし得点制度の検証 ③ 食物栄養学科一般選抜科目へ導入した「家庭」科目の検証 ④ 食物栄養学科一般選抜へ導入した「家庭技術検定のみなし得点制度」の検証 ① 大学入学共通テストの分析と他学の準備状況の調査及び広報の実施 ② 新課程に則した入試問題の検討 ① 新たに導入した選抜方法実施後の検証と効果的な選抜方法の追加の検討
4. 中途退学者の削減	
① 精神・身体・経済面などの問題を抱える学生に対応 ② 奨学金・表彰制度の充実	① 学生が抱える問題を早期発見するための効果的な方法の検討 ② 保護者を含めた学内外の関係者と連携した迅速かつ適切な対応の強化 ③ 特別な支援を要する学生への適切な支援 ④ 相談窓口(学生支援課・保健室・カウンセリング室)の定期的な周知 ① 各種奨学金・表彰制度の定期的な周知 ② 奨学金制度の現状を分析し、学生のニーズに合った制度を検討 ③ 新たな表彰制度の検討

(3) 学修環境の整備

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理とバリアフリーをはじめとする施設整備の利便性向上	
① バリアフリー等の学修環境の整備 ② 学修環境と衛生環境の整備	① 施設設備点検による環境改善とバリアフリー化の検討及び整備実施 ① 既存設備の定期的な点検及び劣化した設備等の更新 ② 既存施設設備の利活用の検討 ③ 多様な感染症への対応を想定した衛生管理と防疫体制の検討・整備

2. 精神的な悩みや不安を抱えている学生の割合3%以下	
① カウンセリングに対する啓蒙を効果的に実施 ② カウンセリング室の利用を促進	① 「疲労蓄積度調査」結果の活用方法、実施方法、質問項目の見直しと検証 ② 学生が抱える問題を早期発見する効果的な方法を検討 ③ 学生相談体制の強化 ① カウンセリング室の利用状況調査の活用
3. 図書館の整備改善と図書館利用率を現在より10%向上	
① 図書館利用者数向上 ② 電子図書館化の検討と推進 ③ 図書館のパソコンの利用環境改善 ④ 自学自習ができる環境整備 ⑤ 図書の質向上	① 授業での図書館利用、読書推進の奨励 ② 電子書籍及びオンラインデータベースの利用促進 ① 学内外に開かれた電子図書館化の検討と推進 ② 図書全体に対する電子図書の購入比率の向上 ① パソコン利用環境に関する学生への広報 ① グループ学習室の利用促進 ① 学術研究に必要な図書の購入
4. DX社会に対応した情報環境の整備	
① DX社会に向けたITシステム構築の整備 ② PDCAサイクルを利用した学習環境の向上	① 学生のパソコン必携化の実施による学習環境の改善と学内設備の適切な整備・展開 ① 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」への体制整備と学習環境の適切な点検・整備
5. ハラスメントの防止(ハラスメント相談件数0件)	
① ハラスメント防止の啓発活動の徹底 ② SNSによるハラスメント対応策の検討	① 教職員に対するハラスメント研修の実施(ハラスメント相談件数0件) ② 教職員に対するハラスメント研修の実施(ハラスメント相談件数0件) ③ 保健室・カウンセリングの学生相談状況調査の活用 ④ 学生生活実態調査の集約と検証 ① ソーシャルメディア利用のガイドラインの周知

(4) 学生支援の充実

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 学生生活に対する卒業時の満足度95%以上	
① アンケート結果の見直しと改善 ② 意見箱に投稿された要望に対応する体制の整備 ③ 如蘭学寮・ドミー寮の施設の改善	① 「学生生活に関する実態調査」「疲労蓄積度調査」の内容ならびにオンライン化を含めた調査方法の検討と改善 ② 各種アンケート調査の分析結果の共有と改善策の検討 ① 関係部署との円滑な情報共有と改善策を策定するための体制整備 ① 施設設備および食事を計画的に改善
2. 中途退学率を1%に抑制	
① 精神・身体・経済面などの問題を抱える学生に対応 ② 奨学金・表彰制度の充実	① 学生が抱える問題を早期発見するための効果的な方法を検討 ② 保護者を含めた学内外の関係者と連携し、迅速かつ適切な対応の強化 ③ 特別な支援を要する学生への適切な支援 ④ 相談窓口(学生支援課・保健室・カウンセリング室)の定期的な周知 ① 各種奨学金・表彰制度の定期的な周知 ② 奨学金制度の現状を分析し、学生のニーズに合った制度を検討 ③ 新たな表彰制度の検討
3. 自治的な活動の活性化および学生の心身の健康維持・向上に対する支援の充実	
① クラブ・サークル活動活性化の支援 ② クラブ・サークル会員の拡大 ③ 尚絅中高校との連携化の推進 ④ 両キャンパス学生会の連帯化の推進 ⑤ 学生が主体的に企画・運営できる支援体制の構築	① クラブ・サークル活動費使用等に対する助言と支援 ② クラブ・サークル活動の実態調査と活動に関する支援 ③ クラブ・サークル室の環境整備 ① 教職員協働でのクラブ・サークル広報の強化 ① 大学・短大学生会と尚絅高校が連帯して活動する環境の構築 ① 両キャンパスの学生会が連帯して活動できる体制を構築 ① 予算の補充、安全対策などに対する支援

4. キャリア支援・就職支援関連事業に対する学生満足度100%	
① 学生ニーズや実態に即した事業計画の検討 ② 学生への周知徹底の検討 ③ 教職協働による協力態勢の構築 ④ 就職課業務の円滑化 ⑤ 大学コンソーシアム熊本との連携強化	① 学生アンケートの検証及び分析結果を反映させた対応策の検討・実施 ① ネット等による周知及び教職員間の連携による直接周知の実施 ① 就職支援委員会を中心としたキャリア支援態勢の見直し・強化 ① 業務知識の共有と互換性の強化による効率的な業務体制の強化 ① インターンシップ制度の積極利用やキャリア情報の共有による連携強化
5. 就職率(就職希望者に占める就職者の割合)100%	
① 公共職業安定所等との連携強化 ② 学生支援課との協働による学生支援体制の強化 ③ 学生の状況に合わせた個別就職指導の実施	① 教職員・HW・教育産業等との連携による効果的な支援体制の検討 ① 配慮申請者や課題を抱える学生に対し関連課との連携による支援 ① 学生の学力等の可視化及び個々の特性に合わせた指導プランによる支援
6. ボランティア経験者数を全学生数の20%以上	
① ボランティア支援センターの活用 ② 学内他組織との連携強化 ③ DX推進による効率化	① ボランティア登録の促進、センター室の充実および活用 ① 各センター、サークル等や併設校との連携強化、Forms等による要望調査 ① googleclassroomの活用推進、シート共有などのICT活用検討等

(5) 研究力の強化

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 研究倫理研修参加率100%		
① 研究倫理遵守活動の推進	① 研究倫理に関する諸規程の内容の確認及び教職員各自の役割の確認 ② 研究活動の不正防止のための研究倫理教育の実施 ③ 競争的研究費等の運営・管理に関する不正防止計画の策定 ④ 競争的研究費等使用ハンドブックの作成と配布 ⑤ 競争的研究費等の運営・管理に関する不正防止計画の策定及び管理に関するコンプライアンス教育の実施	
2. 科研費等競争的研究費申請数30件、採択数8件以上		
① 学内研究費の充実と効果的配分	① 科研費の申請状況に基づく特別研究費の傾斜配分 ② 学内共同研究への特別研究費の配分	
② 科学研究費等競争的研究費の獲得支援	① 科学研究費等競争的研究費に関する情報提供と申請支援体制の強化	
3. 共同研究・受託研究の実施件数5件以上		
① 研究環境の充実	① 研究設備・機器等の計画的導入・更新及び整備	
② 研究支援体制の構築	① 産学官連携に基づく共同研究の推進	
③ 尚綱子育て研究センターの研究活動の推進	② 共同研究・受託研究、知的財産等に関する規定・契約の整備の検討 ① 乳幼児保育研究会の定例開催と保育現場と共同した実践研究 ② 附属こども園との連携(子育て・発達支援、保育・教育に関する研究) ③ 第24回公開シンポジウムの開催 ④ 第11回保育実践講演会の開催	
④ 尚綱食育研究センターの研究活動の推進	① 学食レシピコンテストの実施と拡充の検討 ② 天草地区漁業士会との連携による尚綱食育の日の実施 ③ 熊本の郷土料理の料理教室の実施 ④ 「くまもの郷土料理の周知活動及びその効果の検証事業」の実施 ⑤ 郷土料理啓発活動(パネル展示とオンラインアンケート)の実施 ⑥ 尚綱乳幼児食育研究会の開催(保育現場の食育推進と安全な給食提供の実践的研究) ⑦ 尚綱食育推進プロジェクト連携事業の実施 ⑧ 尚綱食育推進シンポジウムの開催	
4. 研究成果発表50件以上		
① 研究成果発表の推進	① 研究成果発表(研究論文・学会発表)の情報収集と分析	
② 「尚綱大学研究紀要」の充実	① 『尚綱大学研究紀要』第58号の発行 ② 『尚綱大学研究紀要』第57号のオープンアクセス化	
③ 「児やらい」の充実	① 「児やらい」第22巻の発行及び学園WEBでの情報発信	

(6) 社会連携の拡充

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 地域連携事業件数7件以上		
① 連携事業の分析及び全学的な方針の策定と体制整備	① 尚絅地域連携推進センター運営委員会における各センター連携事業の進捗状況・成果の共有と分析	
② 連携事業の情報集約とセンター間の連携体制の検討	① 全学科および各センター間の連携支援	
③ 活動を通じた地域とのネットワーク構築	① 県内自治体・事業者との連携継続と新規連携の構築を支援	
④ 大学コンソーシアム熊本を活用したプラットフォームの形成	① プラットフォームへの参画及び情報共有	
2. シンポジウム・公開講座・講演会開催件数5回以上、参加人数100人以上		
① テーマ及び講演者人選を適切に実施	① 若年層から高齢者層に対応した幅広く魅力あるテーマの検討	
② 地域社会に対する周知方法の検討	① シンポジウム・講演会の情報発信方法の支援と効果の検討	
3. 研究会・交流会の継続的開催		
① 保育者養成校の拠点として、相談支援、助言活動の継続的実施	① 乳幼児保育研究会の定例開催、相談支援・交流会の保育Café、子育てCaféの定例開催	
② 子どもの保育・発達等の知見を地域に還元	① 大学の有する知的資源を保育現場に還元、熊本の保育・子育ての向上を目指した取組み	
③ 食育に関する実態調査の定期的実施と、研究会の開催	① 乳幼児食育研究会の定例開催（及び給食関係者の課題解決のための情報交換）、調査研究活動	
4. 寄附講座開設数 1件以上		
① 共同研究講座や寄附講座の開設の検討	① 地域課題解決に関する共同研究講座や寄附講座の開設に向けての情報収集	
5. シンポジウム・公開講座・講演会受講者の満足度90%以上		
① シンポジウム・公開講座・講演会の受講者増加	① インターネットでの広報の充実と促進	
② インターネットを活用した積極的な広報	① SNS等を活用した広報活動の実施	
③ 幅広い年齢を対象とした魅力的なテーマ	① 若年者から高齢者に対応したテーマの募集と検討	
④ 満足度数値化のためのアンケート作成	① 満足度を測る指標のアンケート内容の見直しと結果の検証	

(7) 国際交流の推進

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 社会的ニーズを見据えた海外協定校との交流の拡充 (中国語圏の協定校との交換留学生の派遣・受入枠を最大3名)		
① コロナ禍以前の交流レベルの回復 ② 共同調査・研究を視野に入れた教職員の幅広い交流の実現 ③ 中国語圏の協定校との交換留学生の派遣・受入枠の拡大		① 感染症などの発生状況を考慮しつつ、協定校と連携して交流プログラムを着実に実施 ① 教職員間の交流(釜山大学校はMOUにて対応済み)の機会を検討・実施 ① 既存の協定校との確実な交流実績の蓄積と新しい協定校との交流を見据えた交流プログラムの検討
2. 魅力的な国際交流プログラムの工夫・開発(短期語学留学や研修旅行への参加者数を年間最大実績数(短期語学留学17名、研修旅行24名)の1.5倍)		
① 既存のプログラム内容の工夫・改善 ② 全学部・学科から参加を見込めるプログラムの提案と実施		① 学生のニーズ調査とその結果を協定校と情報共有しつつプログラムを充実化 ① ハワイ大学マノア校やSouthern University College(マレーシア)以外の英語関連プログラムおよび釜山大学校などが開催する交流プログラムへの参加を検討
3. 多様な交流プログラムの工夫・促進(グローバルラウンジの年間利用者数を最大実績数158名の2倍)		
① オンライン交流の在り方の工夫 ② グローバルラウンジの拠点化につながる効果的な運用		① オンラインを活用した留学前後の学生(派遣・受入)の指導の充実および協定校で開催されるオンライン留学プログラムへの参加を促進 ① 県内で語学を学び、国際交流に関心を持つ高校生と本学の交換留学生(派遣・受入)との交流イベントを企画・実施

(8) 内部質保証

アクションプラン 重点施策		具体策
1. 授業満足度4.5ポイント以上		
① 内部質保証と教育研究水準の向上		① 内部質保証システムの機能強化 ② 現代文化学部 of 収容定員充足率0.7倍未満に対する改善 ③ こども教育学部の在籍学生数(2年間)の入学定員合計数0.5倍未満に対する改善 ④ 学生及び学外関係者における意見・要望に対する改善システムの体制整備 ⑤ 学生によるSA制度の導入検討 ⑥ 両キャンパスのバリアフリー未対応の施設に対する計画的整備 ⑦ 生活科学部の講義型授業に対する受講者数の適正化検討 ⑧ 意見箱の取扱いに関する規定化の検討 ⑨ 学生が校外実習などで欠席した際の取扱い統一及び明文化の検討 ⑩ 副学長、学長補佐の組織上の位置付け及び役割の明文化の検討
② 学修成果の可視化とアセスメント体制の整備		① 学修成果の数値化と情報共有
③ 教育課程の体系化と科目ナンバリングの検討		① 開講全科目を対象としたナンバリング案の作成とカリキュラムツリーへの反映
2. 学生生活に関する満足度95%以上		
① 調査データの分析に基づくPDCAサイクルの徹底		① 学内に蓄積されている多数データの集積・分析
② 学生ニーズを踏まえた課題解決への取組み		① 学生調査データのフィードバックと改善活動の徹底
3. 卒業生アンケート回収率30%以上		
① 卒業生ネットワークの活用		① 学部・学科及び同窓会との連携強化
② アンケート調査方法の検討		① QRコード等を活用したWebによる調査の実施と検証
4. FD・SD研修会の参加率100%		
① 教育内容・方法の改善に向けての工夫・開発		① オープンクラス・ウィークの参観率100%
② 組織的な研修機会の提供		① 教職員の資質向上と能力開発に繋がる研修テーマの企画
5. IR機能の構築と推進		
① 学内ポータルサイトの構築		① 各種調査データを一元化、情報共有する大学IRを支援するサイトの活用推進
② 「SHKEI DATABOOK」フレームワーク化の検討		① 各部署と連携し、効率的にデータを収集・情報共有する方法の検討
③ IR機能の強化		① 学内調査結果の蓄積と経年比較による分析
④ IR人材の育成		① IRをテーマにした研修会の企画

3. 尚絅中学・高等学校

令和6年度は、学校教育活動もほぼ通常の形に戻り、生徒たちは「建学の精神」と「教育理念」の下、志を高く掲げ、ひたむきな努力と挑戦を続けることで、様々な分野で結果を残すことができました。入学者数についても、中学生21人、高校生203人と、4年振りに20人・200人を超えました。この増加の背景には、学校ホームページの充実、学校案内パンフレットの改善及び近隣の小学校や県内の中学校及び学習塾の訪問回数を増やしたことが考えられます。

第二期中長期計画の3年目にあたる令和7年度は、各コースにおける学びの更なる魅力化と発展を図るため、大学等との連携による教育力の向上に取り組みます。また、教職員の指導力向上を図るため、外部講師等を招いた研修や外部研修制度の積極的活用を行います。志願者数・入学者数増加のための広報戦略については、全職員と管理職のみで実施する学校訪問の差別化を図ります。なお、令和7年度のアクションプランに対する重点施策及び具体策は以下のとおりです。

- (1) 「教育の質向上」
デジタル採点支援システムを導入し、生徒の学習状況の可視化、テスト後の即時フィードバックによる学習効果の向上、蓄積されたデータによる指導方法の改善を行い、教育の質向上を実現します。
- (2) 「品性があり社会に貢献し得る生徒の育成」
予測困難な時代に生徒たちが主体的に生き抜く力を持てるよう、一人の人間として、また女性としての将来について自ら考えていくことを軸にした指針を作成します。
- (3) 「生徒支援の充実」
職員間の情報共有と組織的な生徒支援を行うとともに、スクールカウンセラーと連携した教育相談による生徒・保護者への支援の充実を図ります。
- (4) 「地域貢献の推進」
地域機関との連携を強化し、ボランティア活動や地域行事に参加する生徒を増やします。また、地域の自治会等と連携した環境美化に取り組みます。
- (5) 「個性豊かな生徒の獲得」
尚絅学園としての本校の魅力を大学と連携して見出し、その魅力を小・中学生や保護者に学校ホームページやSNS、その他の広告媒体を介して周知します。

(1) 教育の質向上

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. グローバル社会の中、国際共通語である英語力の向上や資格試験等の対応を強化する		
① 全校生徒の英語力向上		① 中高一貫コース英検取得率達成目標: 中学3年卒業時準2級50%以上 高校3年卒業時2級(もしくはGTECスコア930点)以上40%
② 英語教員の指導力向上		① 校内研修の実施と外部研修会への参加
③ 中長期留学制度の確立		① 留学説明会の実施と中長期留学相談の充実
2. 生きる力を身につけ、グローバル社会に対応できるような国際交流プログラムを充実させる		
① 姉妹校や交流校との交流促進		① 交流校の定期的な訪問・受け入れ計画の作成と実施
② 交換留学制度の確立		① 交換留学制度の確立を目指し、受け入れ校の開拓を継続
3. 課題解決能力や創造力を育む探究教育の推進を行う		
① 一人ひとりにあった「探究型学習」の確立		① 学校評価アンケートによる生徒満足度率90%以上を目標
② 「総合的な探究の時間」の年間スケジュール作成		① 探究学習委員会を中心に前年度の反省を踏まえて各学年の引継ぎを行い、年間スケジュールを確立
③ インターンシップなどの校外活動の充実		① インターナショナルエアアカデミーにおけるインターンシップの実施。2学年では、高大連携による探究学習における協力体制の確立を図り、「研究室訪問」「講義」等の実施
④ 企業と連携したプロジェクト型探究活動の推進		① 地元企業や外部のNPO団体と連携した商品開発などのプロジェクト型探究活動担当者の決定と、生徒が主体的に取り組む活動の推進
⑤ 探究学習の成果発表会の実施		① 各コース毎の探究学習の成果発表の実施
4. 教育力の向上を目指す		
① 専門教科並びに進路指導力の充実		① 外部研修制度の積極的活用と研修会への参加
② 情報共有方法の検討および教職員の連携強化		① 実施した生徒情報共有会の検証と、更なる効果的実施方法の検討

(2) 品性があり社会に貢献し得る生徒の育成

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 中学校では「進路・生き方に関するプログラム」を組み、人間としての生き方の次元から将来像を掘り起こす指導を行う		
① 表現力育成のための教科横断的な活動の実施	① 6年間を通して「コトバノチカラ」をつけるため、プレゼンテーション、ディスカッション、ビブリオバトル、ディベート、スピーチ、弁論など、教科を横断した表現力の育成に繋がる活動の実施	

② 「コトバノチカラ」プログラムの充実 ③ 進路や将来について考える機会の確保	① グローバル教育と環境教育を結び付けた取り組みの充実 ① 学年毎のテーマに基づき、講演会、集会などの実施と、生徒一人一人が進路や将来について考える機会の保障
2. 高等学校では、総合進学コースにおいて教育理念を同じくする尚絨大学・短期大学部にて更に品性のある女性として成長させるため、同大学・短期大学部への現役進学率を40%以上にすることを目標とする	
① 尚絨大学・短期大学部進学希望者への進路指導強化 ② 外部進学を希望する生徒への進路指導強化 ③ 生徒・保護者への情報提供や進路指導の実施	① 尚絨大学・短期大学部の志望者に対する学部別説明会・個別相談会等を実施することで生徒の理解を促し、進学への明確な意思と基礎学力を充実させる ① 通常の授業に加え、特別ゼミ、朝課外、放課後課外、長期休業課外等を充実させ、学校推薦型選抜・総合型選抜並びに一般選抜に対応できる能力を養成 ① 高校1・2年次における大学授業体験や生徒と保護者対象の大学・短期大学部説明会の開催およびオープンキャンパスの参加勧誘
3. 総合進学コースにおける進路希望別クラスの特徴を明示する	
① 進路希望別クラスのカリキュラムや授業内容検討 ② 将来像の具現化のための進路指導カリキュラムの検討 ③ 検定試験や資格習得への指導の実施 ④ 進路選択別の発表の機会を設定	① 進路希望別クラスの特徴あるカリキュラムや授業内容の検討と年間計画の作成 ① 総合的な探究の時間の各コース・学年の担当者の配置、並びに担当者間での情報共有と系統立てた計画表の作成・実施 ① 各教科で担当者を配置し、受験の促しおよび指導を実施 ① 探究活動等で学んだ内容をアウトプットする機会として、進路選択別・コース別の発表会の計画・実行と系統立てた取り組みの実施
4. 特別進学コース・一貫コースにおける国公立大学及び難関私立大学の合格実績向上を目指す	
① 受験に対応したコース毎のカリキュラムの見直し ② 中学3年間の進路意識の向上 ③ 受験科目を早期に絞らせない指導の実施 ④ 国公立大学、難関私大の受験を意識した講座の設定	① 2学期以降の共通テスト対策授業および私立大学・国公立大学2次対策授業を展開 ① 中学3年次より国公立大学、難関私立大学の情報を積極的に提供し、志望校として意識させるための指導とコース集会の実施 ① 受験科目を早期に3科目に絞らせず本人のやる気を引き出すため、授業担当者全員で共通認識を持ち、クラス担任と連携協力した指導の実施 ① 授業を含め朝夕課外や夏期・冬期課外の充実を図ると共に、早期に国公立大学、難関私立大学の受験を意識させるような講話の実施と情報の提供
5. 学校評価に関わる生徒・保護者アンケートの「進路指導が適切に行われている」の設問について、「そう思う」を80%以上にすることを目標とする	
① 進路指導部のサポート体制の見直し ② コース毎の模試分析、教科担当者会の実施 ③ 中学対象の進路説明会の充実	① 進路関係書籍の充実や進路検索用のパソコンの購入等の環境面での整備 ① 2・3年次の進路検討会の内容を踏まえた効果的な教科指導方法の在り方を検討 ① 中学段階での生徒、保護者への進路情報の提供と進路意識の向上

(3) 生徒支援の充実

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 校内外の奨学金の告知の徹底並びに本校の特待制度の充実を図り、学力、特技に秀でた生徒を支援する	
① 特技特待制度や学力特待SSについての成績基準等、特待内容等の検討 ② 文化系の特待生に対する支援	① 就学支援金を考慮した特技特待制度の検討 ① 生徒が在籍している習い事教室等に対する広報活動で特待生制度を周知
2. 本校のカウンセリングの充実化を図り、生徒支援体制の確立を目指す	
① 生徒情報の在り方の検討 ② 支援が必要な生徒への指導力強化	① 環境保健部を中心とした生徒情報の在り方の工夫 ① カウンセラーとの協力体制の継続と支援
3. 育友会、後援会、同窓会との連携を強化する	
① HP、Classiなどでの情報配信 ② 在校生徒による現状報告会等の実施	① 生徒の学校生活の状況をHP、Classiなどで配信および連携の強化 ① 在校生徒代表を中心として、育友会や同窓生と連携して現状報告会及び本校の今後の在り方についてのディスカッションを計画
4. 生徒会活動や部活動の充実を図る	
① 同好会、愛好会の規定等の見直し ② 自立した組織作りへの指導	① 生徒会議による同好会、愛好会の規定等の見直し ① 生徒会活動の在り方の検討と委員会活動の活性化の促し

(4) 地域貢献の推進

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. ボランティア活動、SDGsなどの活動を支援する		
① 年間計画の作成	① 部、クラブ、委員会で参加しているボランティア活動の年間スケジュール作成	
② ボランティア活動の内容の精査	① 学校の年間行事と部活動の大会に照らし合わせたボランティア活動の精査	
③ ボランティア活動参加者の状況配信	① ボランティアの参加、取り組み状況を学校ホームページやClassiで配信	
④ SDGsに対する取り組み	① 地域の自治会等と連携した環境美化の計画と実施	
2. 地域行事への参加、各種大会を主催して地域への活性化に積極的に参加する		
① 塾、地域の自治会、小中学校との連携	① 塾、地域団体、小中学校と連携を取りながら、広報活動を実施	
② 探究活動の社会的な活動への発展	① クラスやコースで行っている探究活動への生徒の積極的な参加を推奨し、企業やNPO団体、地域とのコラボ等の実現に向けて相手企業・地域との連携を検討	

(5) 個性豊かな生徒の獲得

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 尚綱中学校において入学者30名、尚綱高等学校において入学者220名を目標とする		
① 計画的な訪問活動 ② インターネット媒体の活用 ③ 本校の魅力の継続的な発信 ④ 外部会場や校内の説明会の検討 ⑤ 受験生・入学生の質の低下への対応	① 年間計画に則った全職員での訪問活動の継続と管理職で実施する訪問活動の実施 ① 動画配信、YouTube等のインターネット媒体の積極的な活用と情報発信を継続 ② 中学・高校入試におけるWeb出願の継続 ① 在校生や進学塾から得た情報を参考に、一貫した本校の魅力を継続的に発信 ① 校内外で行う説明会の内容を工夫し、効果的な情報発信を実施 ① 入学生の質の低下を防ぐため、合格のボーダーを年々上げて一定のラインを維持すると共に、その分析結果を入試検討会議に反映	
2. 特待生制度を活用してスポーツ、芸術活動等に優れている生徒の確保に努める		
① 広報戦略案の策定 ② ホームページ、YouTube等のWeb関係の充実 ③ 習い事やクラブチームでの活動種目の生徒募集強化 ④ 特技特待生勧誘活動の検討	① クラブチーム、習い事教室等の実態調査と各種大会の開催日を把握し、戦略を策定 ① 在校生の校内外での諸活動・部活動等での実績を校内外で周知 ① 入学後も学業と両立しながら活動を継続できる種目の情報収集と、生徒募集活動への反映 ① 公立小中学校やクラブチームの指導者との繋がり強化と広報活動の充実	
3. 転退学者の削減に努める		
① 外部関連機関の情報共有と研修の推進 ② 教職員間の情報共有体制の見直し ③ 時代に合った校則の見直し	① 外部関連機関の情報共有と教職員、保護者への支援の在り方等に関する研修案内等の適宜配信 ① 各学年への特別支援教育に関する担当者配置による情報共有体制の見直し ① 随時、校則の検討。制服・指定用品の購入についての見直し	
4. 建学の精神に共感し、目的意識の高い専願生の層を拡大するために戦略的な広報活動を行う		
① 広告のイメージの一貫性を維持 ② 塾や学校などに重点を置いた活動を検討 ③ 在校生への広報活動・情報発信 ④ 中高のキャッチフレーズの検討	① 広告のイメージの一貫性を維持し、HPやSNS、その他の広告媒体に反映 ① 人口が増えるエリアや、本校近隣を中心に塾や学校などに重点を置いた広報活動を継続 ① 在校生の校内外での諸活動・部活動等での実績に関する情報を校内掲示やClassi、ホームページ、YouTube等のデジタル媒体を通して適宜発信 ① 学園広報部と連携して中高のキャッチフレーズを検討し、広報媒体で適宜配信	

4. 尚絅大学附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし「尚絅らしさ」を生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成による社会貢献に努めています。

まず、教育・保育です。「全体的な計画(教育課程)」をもとに、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成(教育的意図)を創造し、子どもの健やかな成長をめざす」ことを目標に、「尚絅らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」として、全教職員が質の高い、温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。今後は、協働してクリエイティブな実践を展開していくこと、また小学校への円滑な連携を図ることが課題です。広報紙やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA(杉の子会)との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「子育て相談会」や「どんぐりルーム」等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や援助・配慮を要する保護者の増加に伴い、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育施設との連携・協力、保護者の相談事業等のもと、保育者数の確保や研修が急務となっていますが、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない状況も見られます。また、園児の命と安全を守るために、子育てに不安や困り感をおもちの保護者、DVや児童虐待事案等に対して、行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援を実施しています。喫緊の課題は、収支均衡のための園児の確保です。周辺市町は熊本市のベッドタウンとして人口増加率が高く海外からの進出企業の影響もあり数年は少子化の影響は少ないと見られていましたが、昨年度の募集では3歳1号園児が定員まで達していない状況ではあったものの、収支の均衡はとれましたが、今後も実現できるか不透明な状況です。これまで、1号園児数を確保するために従来の在園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けたり、満3歳児を12名から18名に増やしたり、その他にも保護者サービスの向上に努めてきました。さらに、一昨年度、1号保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、保護者のニーズの把握とそれに基づく対応策を協議しました。昨年度から始めたその対応策の実現を進めていきます。将来的には、収支均衡を実現するための定員の見直し等の対応が必要になるかと思われるため、その準備も進めていきます。

また、保育者の確保も大きな課題です。全国的な保育者不足であり、本園でも処遇の見直し等を図って確保に努める必要があります。また業務改善を図ることも急務です。学級事務の簡素化やDX推進を図る必要があります。DX推進では、ICT支援システム「コドモン」を導入し、保護者の利便性を高めてきています。今年度は「コドモン」でのドキュメンテーション機能等の活用を進めるとともに、職員の業務改善への活用を模索していきます。

(1) 子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 尚綱らしさを生かして、質の高い教育・保育の充実に努め、自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の育成を目指す		
① クリエイティブな教育・保育の実践と改善(幼児棟)	① 「全体的な計画」「指導計画案」「各クラスの計画」等をもとに、豊かな自然体験や食育等で心身ともに健やかな園児達を育てる教育・保育の推進、および小学校への円滑な接続の推進(幼保等小・中連携アプローチの作成と実践、小学校との交流、英語あそびや言葉遊び、数あそびなどの実践)(幼児棟)	
② 要領に示された「10の姿」の方向に育つ園児達	① 園内研修を通して職員が積極的に意見交換できる場と手立てを工夫し、目指す姿の共通理解と共通実践を図る。	
③ 教育・保育におけるDX化の推進	① ICT支援ツール「コドモン」等を活用した業務の効率化、ドキュメンテーションの本格的な実践化等に取り組む。	
④ 園児の安全性を高める体制づくりと、教職員の業務効率化・負担軽減の実現	① 職員で働き方の改善の方策を考え、それをもとに業務改善を具体化し多面的に実践を図る。年休や出張等で教職員が不在の場合、園児の安全性の低下を防ぐためのフォロー体制づくりを改善し、保育者・補充教職員・パート保育者等の確保に努める。	
2. 豊かな人的・物的環境を通して、尚綱らしい家庭的で温かい愛情に満ちた保育の充実に努める		
① 一人一人に応じた温かい保育(保育棟)	① 本園の実態に合ったゆるやかな担当制を実施し、一人一人に応じて「個人別月間指導計画」や「保育日誌」等を活用して行う保育を実践する。	
② 要領に示された「5つの領域・3つの発達」の方向に育つ園児達	① 本園の実態に合ったゆるやかな担当制を通して、家庭的で温かい愛情に満ちた安心安全な保育を実践する。	
③ 園児の安全性を高めるための保育者の確保	① 職員で働き方の改善の方策を考え、それをもとに業務改善を具体化し多面的に実践を図る。年休や出張等で教職員が不在の場合、園児の安全性の低下を防ぐためのフォロー体制づくりを改善し、保育者・補充教職員・パート保育者等の確保に努める。	
④ 教職員の共通理解と資質の向上	① 職員会議や園内研修、園内運営委員会を定期的に確実に実施する。	

(2) 子育て支援の充実

アクションプラン		具体策
重点施策		
1. 担任を中心に園全体で、保護者・行政・療育施設等と連携した在園児保護者の子育て支援の充実を図る		
① 園児の命と安全を守るための、教職員の研修・保護者支援のための「子育て相談会」・関係機関等との連携・協力	① 子育てに不安や困り感をおもちの保護者、特別な支援を必要とする園児とその保護者、DVや児童虐待事案等に対して、教職員研修の実施・「子育て相談会」等の年間10回以上開催する。 行政機関・小学校・療育施設・児童相談所等との連携・協力による支援。	
② 保護者の安心感と園児の安全性の向上	① 園内での怪我発生時、コドモンを使って怪我の状況を写真で知らせ保護者と共有するなどして的確な情報提供と迅速な対応に努める。環境の整備と確実な安全点検を行う。	

2. 子育て支援室「どんぐりルーム」において、地域子育て保護者支援の充実を図る	
① 「どんぐりルーム」の積極的開催 ② 講演会やイベント等の計画的実施	① 「どんぐりルーム」開催を確実に実施する。 ① 大学・短期大学部の講師等を招いての講演会やリトミック等や本園職員の知育ヨガ等を随時実施する。また利用した子どもさんの体重測定や、制作・お誕生会・運動会・クリスマス等のイベントを定期的また季節に合わせて実施する。

(3) 次世代保育者の育成

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 尚絅高校生、幼児教育学科、学部学生のための教育実習の充実に努める	
① 高校生、短大生、大学生の教育実習内容の改善 ② 実習生を直接担当する保育者10名の業務負担軽減	① 「実習のしおり」を改訂しつつ教育実習の充実とともに、実習生の実態や状況の把握に努め、適切な指導や支援に当たる。 ① 実習生を直接担当する幼児棟担任10名の事務量が少なくなるように、業務負担軽減を工夫する。
2. 大学・短期大学部と連携した研修の充実、研究の推進を図る	
① 大学・短大と連携した研修の充実 ② 園外研修に主体的・積極的に参加できる環境づくり	① 大学・短大と連携した園内研修を実施したり、授業への参加、講話への招聘等を通して研修の充実を図る。 ① 園外研修中に園児の安全を守るため及び振替休日取得のためのフォロー体制づくり、補充保育者等の確保に努める。

(4) 自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保

アクションプラン 重点施策	具体策
1. 遊び環境を整備し、尚絅学園HP「お知らせ欄」で本園の魅力や園児達の姿を年間に100回以上の情報提供を達成する	
① 園児の遊び環境の整備 ② 尚絅学園HP「お知らせ欄」の充実	① 園児の年齢や興味・関心、季節等に合わせた魅力的な遊び環境の整備に努める。合わせて小学校との円滑な連携に努める。 ① 尚絅学園HP「お知らせ欄」で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を年間に150回以上。うち園の様子を当日に配信する件数100回以上できるように努める。加えて「入園のご案内」欄の充実に努める。
2. 保護者のニーズに応じて園児を確保し、収支均衡を達成する	
① 受入園児数や定員の見直し等による収支均衡の実現 ② 教職員の心身の健康や安全面への配慮	① 年齢別・認定別の受入園児数の見直しと定員見直しのタイミングやそれに伴う問題点等の検討、および午前中保育やお弁当の日の削減、預かり保育の日数増、満3歳児クラスの5月受入れ、教育・保育の充実等の実施を通しての1号認定園児数の確保による収支均衡を実現。 ① 教職員の勤務時間・休暇、服務等の管理、心身の健康や安全面への配慮に努めるとともに、ハラスメントの防止、法令順守、危機管理の徹底を図る。